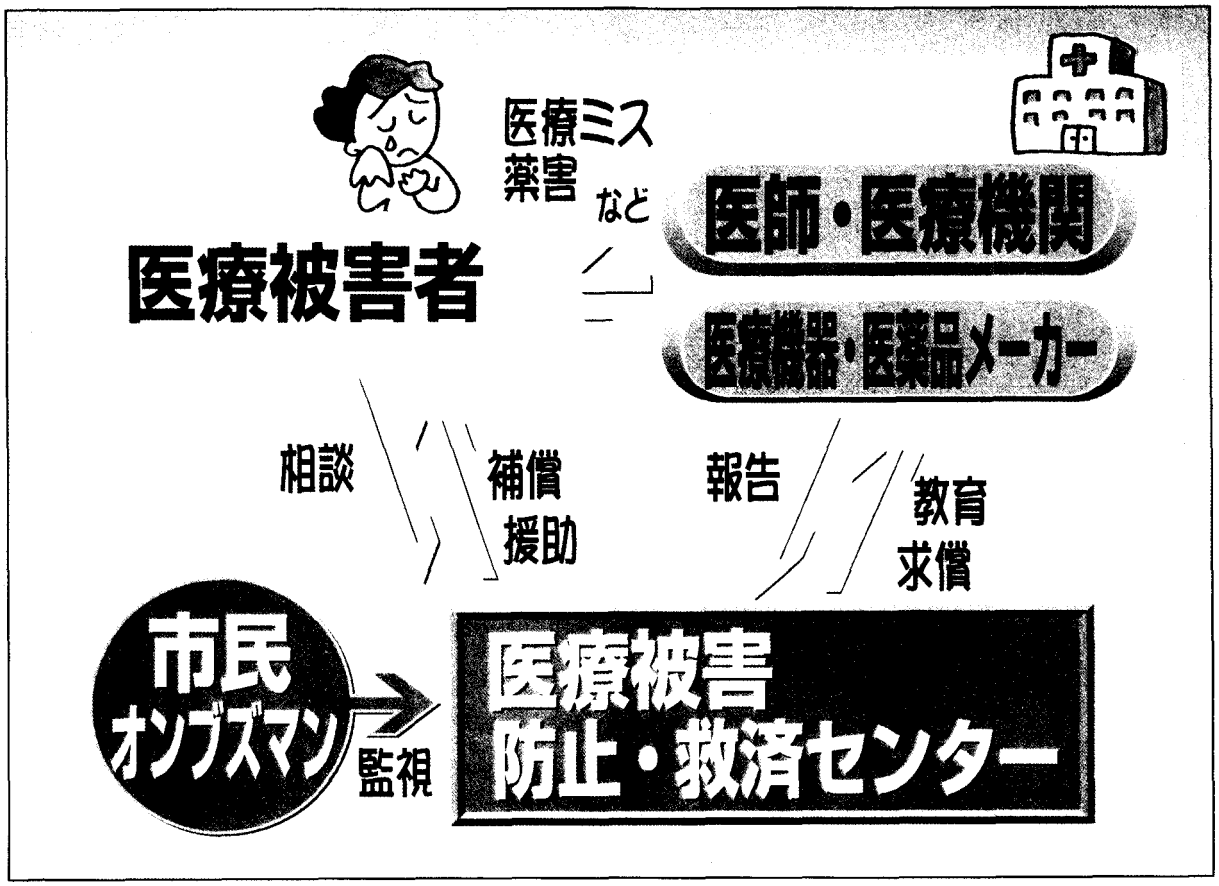
医療事故を防止し被害者を救済するシステムをつくりたい

—「医療被害防止・救済センター」構想の実現をめざして—

南山大学法科大学院教授
弁護士 加　藤　良　夫



連　絡　先

□「医療被害防止・救済システムの実現をめざす会」（仮称）準備室
〒461-0001 名古屋市東区泉1丁目1－35
ハイエスト久屋6階　センター気付
TEL 052－951－8810　FAX 052－951－8820
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://homepage2.nifty.com/pcmv/
E-mail　BCC06176@nifty.com

□栄　法律事務所
〒460-0008 名古屋市中区栄4－15－23　LM1216
TEL 052－263－1303　FAX 052－263－1327
E-mail　ykato777@aqua.ocn.ne.jp

（なお、医療事故情報センターのホームページはhttp://www3.ocn.ne.jp/~mmic/ です。）

目　　次

はじめに……　P、1

Ⅰ「医療被害防止・救済センター」構想の基礎にあるもの……　P、2
（〝センター構想〟の背景・動機・問題意識を語っています。）

Ⅱ「医療被害防止・救済センター」構想……　P、11
（〝センター構想〟の要点が図になっています。）

Ⅲ「医療被害防止・救済センター」構想について……　P、12
（〝センター構想〟の内容を解説しています。）

Ⅳ「医療被害防止・救済センター」構想のこれまでの歩み……　P、16
（〝センター構想〟に関する報道を中心に記しています。）

あとがき……　P、18

資料（1～10）……　P、19

（表紙図はＮＨＫのフリップより）

はじめに

私はこれまで30年程、患者側弁護士の立場から医療被害者の救済に取り組んできました。それは医療被害者の救済を阻む「三つの壁」（専門性の壁、密室性の壁、封建制の壁）との闘いの歳月でもありました。

ところで医療被害者は「五つの願い」（原状回復、真相究明、反省謝罪、再発防止、損害賠償）をもっています。その中で一番強いのは、亡くなった人を返して欲しいとか、もとの状態に戻して欲しいという原状回復の願いです。しかし、失われた生命は戻りません。しかも生命・健康は金銭に評価することのできない価値であります。ですから賠償を求める裁判には本質的に限界があります。真相究明、反省謝罪、再発防止という観点からみても、裁判がベストの方法とは言えません。もちろん、警察や検察が医療過誤のケースのすべてを収集し、対策を立てるという役割を担うことが良いとも思われません。

医療被害者を速やかに救済すると共に医療事故の事例から教訓を引き出し、再発防止・医療の質の向上に役立つようなシステムを新たに構築する必要があります。

医療被害防止・救済センター構想を最初にまとめたのは、末尾の「これまでの歩み」の中にあるとおり1997年2月のことです。その年の9月に新聞報道されて以後これまで多くの方々の意見を聞き、私なりに考えながら部分的に改訂を重ねてきました。医師や看護婦の方々を対象とする研修会やシンポジウム等の場でも一つの考えとして提示してきました。医療被害者・市民の方々の集会でも話をしてきました。（このパンフレットの前半部分（P. 2～P. 10）は市民グループの勉強会で話した時の記録をもとにしています。後半部分（P. 12～P. 15）は、医療事故情報センターのホームページに掲載した記事をもとにしています。）その結果、この構想の基本の考え方については多くの方の賛同が得られるものと思っています。

現時点でもこの構想が完璧なものとは言えませんが、医療事故防止と被害者救済を図る「第三者機関」を設置する必要性については大方の合意が得られるものと思います。「第三者機関」のイメージを考える際の一つのたたき台としていただければ幸いです。

「医療被害防止・救済センター」の設立を目指す活動母体「医療被害防止・救済システムの実現をめざす会」(仮称)を可能な限りすみやかにスタートさせたいと思っています。その準備のために2001年9月「医療被害防止・救済システムの実現をめざす会」（仮称）の〝準備室〟を開設しました。準備室の任務は、第一に新しいシステム乃至第三者機関の必要性を広報すること、第二に呼びかけ人、賛同者等の輪を広げていくこと、第三に「めざす会」の準備会の発足に向けて必要な諸活動を展開することです。

なお、「医療事故を防止し、被害者を救済するシステム」については、きっと様々なアイディアが可能だと思われます。大筋このようなものというイメージがないと人々は力を発揮できません。新しい制度を作り上げていこうというのですから、様々な意見があって当たり前です。細かい点の違いを乗り越えて、英智を結集して素晴らしいシステムを共に作り上げていこうではありませんか。